はるの家ゝ梅

初編中

へ13
2919
2

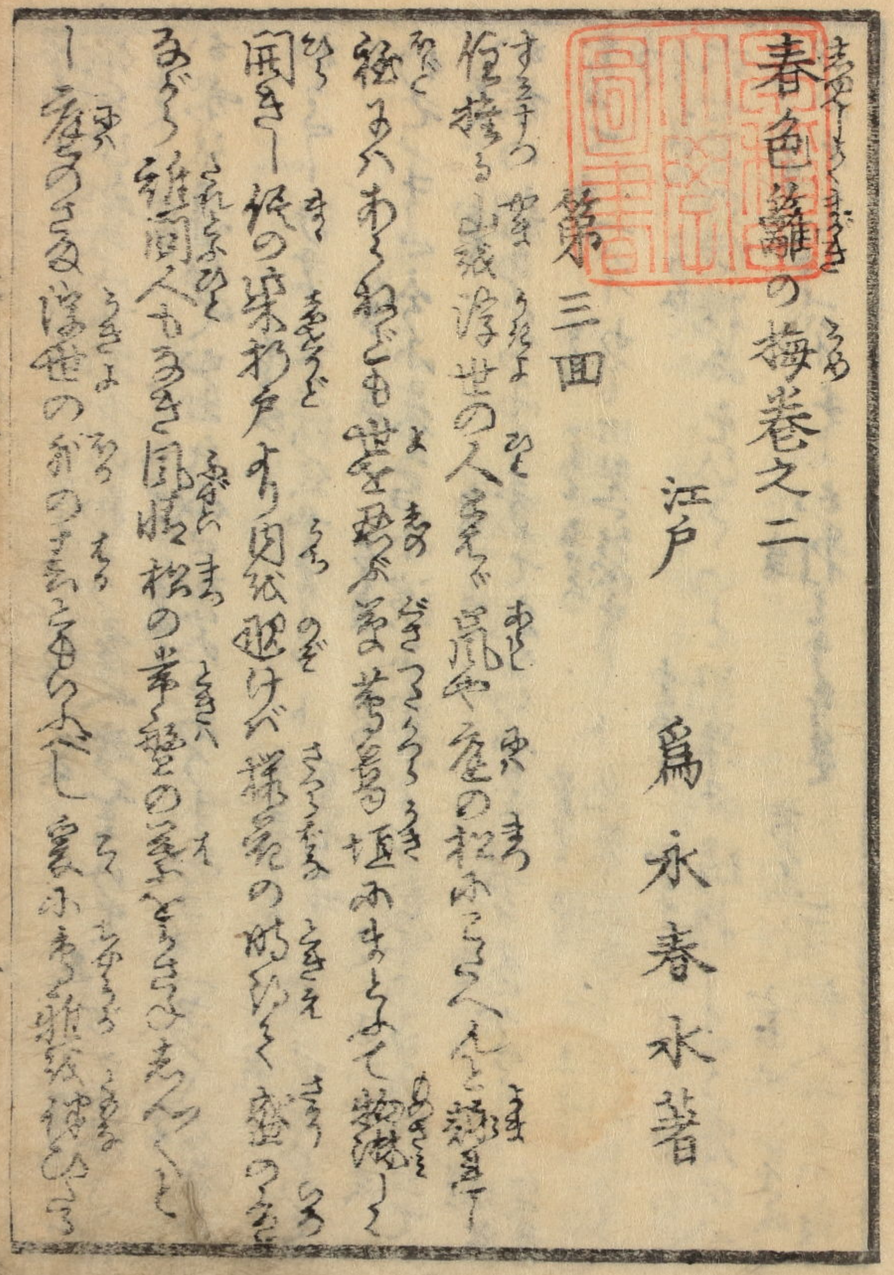
門へ13
2919
2

昭和九年
文四、六八
購求

春色籬の梅巻之二

江戸　爲永春水著

第三回



[illegible]
[illegible]の家[illegible]の[illegible]
お[illegible]
おろ[illegible]
[illegible]
[illegible]
お[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
六七[illegible]の[illegible]
[illegible]

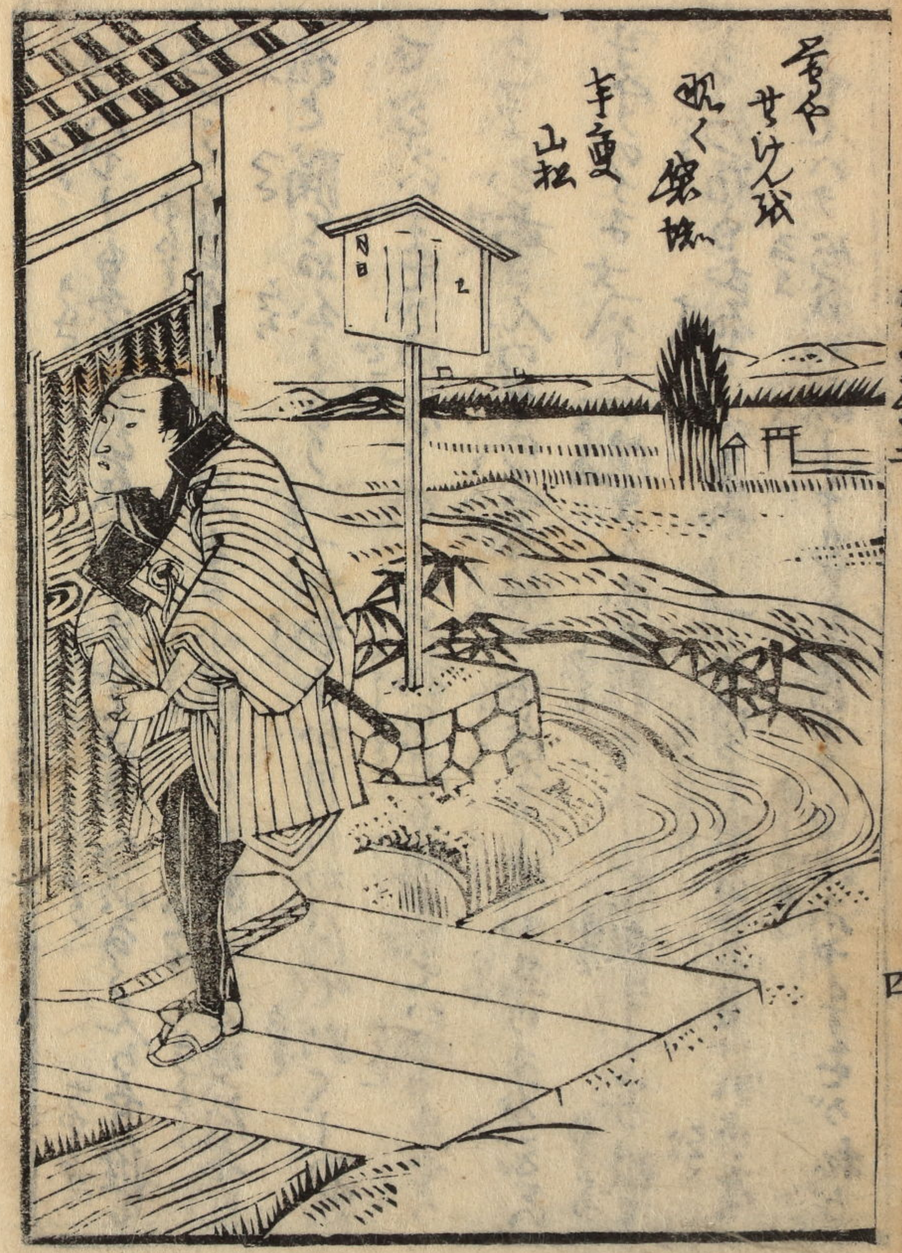
子ハイ[illegible]小演さん
[illegible]
[illegible]
[illegible]

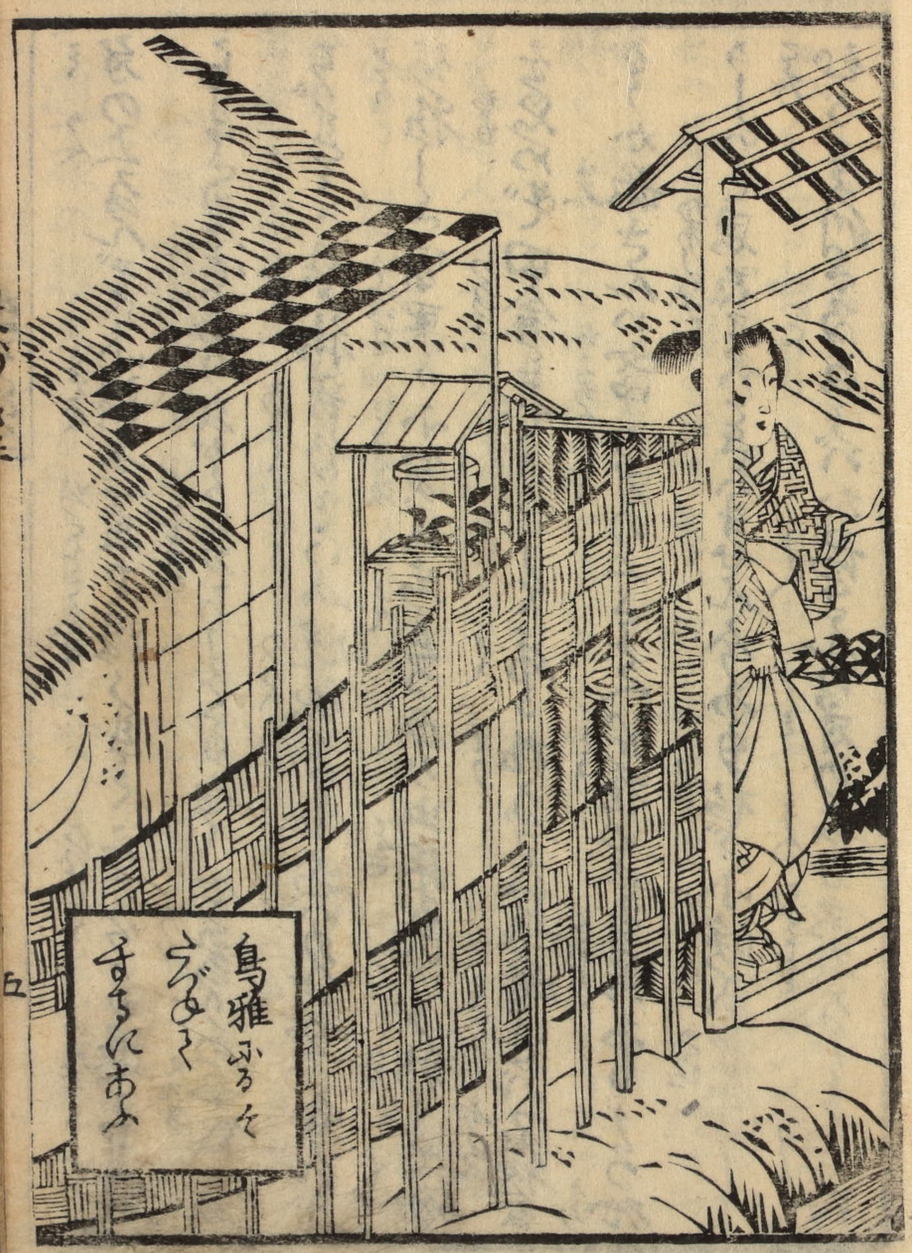
まゝこそう〜極あく悔りまそうマア、ゆーのるお病気成て何の事
かまとら成ます極ホサア四条ハいりまそね法者へお通りな
さいまゝドレか茶代上ます也と言へ出ると　女へさそホ
濱さんい様〜らちりのホ早く逃げくお出るゝ結ホトやらいホ
そうのむきいさそうホ雅の方のうへを知つさ極ふとはちまて
きく　さう　愛も優りと美履と愛こ多雅ハ昌城体ひう正へ茶をてこ
きさ　寄りくさ〜ゆ　完命と愛ひうゝ　女へ何極してマア此処ホ
小濱さんう　お公のるうお茶さんホ　知まそうくこれへ出花小濱

さんがお呼成して来〜ゞのゝ〜ち年の甲斐ゞがありまそハ嬉ホ
手ヲ　四条切るお知ゞ　ちれまそョ　ちへこそへ　ちう大きホ　ち世極
さ多ホありまゝて　ちれの　ハれぞ　ゞまそが　ハ今さ世のおこそ
る　考ホ小濱さんが　何の　ゞれの　呼ゞ申ハ　ゞまそゞが　女へ　イ　ハ　ち
お呼ゞ　ゞうゞ　ゞうゞ　ゞいどゞハませんョ　ゞ男濱ゞ　ゞ組ゞ　小濱さん
ゞハ　極ゞ　ゞ長ホ　ゞ長まゝこ　ゞ何ゞ　ゞ師ゞ　ゞ組ゞ　ゞ結ゞ　ゞ組ゞ　ゞ結
して　ゞ長まそう　ゞ毎ゞ　ゞお茶さんの　ゞるゞと　ゞ言ゞ　ゞ出て　ゞ楽ゞ　ゞうゞ　ゞて　ゞち
ゞで　ゞ立ゞの　ゞ茶ゞゆ　ゞありまゝ　ゞお茶さんの　ゞるゞと　ゞ茶ゞで　ゞ茶ゞ　ゞれゞで　ゞお　ゞ立ゞの　ゞ長ゞゆ

あつまりまして小濱さんも私も今年八歳ひがけつく是までの雅由美も消く仕まつり辛抱しまして春の雅ふと此春うさのの
ちょうどいたしまして今日お姉さんがそこ雅さんふ遠ッて
て帯ねてお出のるべ四陽春さの古ひふ和遠るく
小濱さんの僥倖でございますが私のるハ和さもこの和雅
ぞんじますもふ人ふ春ようみるハ遠ございませんう
彩しうございまもヨト さをぐふ性さ女の公姫性ふくち
あけく給るも春雅の人ふよき風性ふなづこて陽さびふ

いふハかしも春ふひ公ちくさんと春る人性るうんう春雅む
和めく春ようる女といふとも小濱さん拝勝かと度故ふ自
私と隔てぬ公とるり ハ和ふお目にかゝて別くしの雅
でございまもが中なしのうんハ私の身も陽さぎふ四ヤまさう
うアア お弟さんの身のるも何うる春ようてか生のるがございハ
まさのうみ女ハイ小濱さんふ不明えるして春まさうが改て
う何私も和ようしのるぞハテ中まを春るさるるけハ中春
まを人ハナ何成お陽しャるもるのうう白地ふヤまもが私ご


吾や
せけん成
吹く袋坊
主夏
山松


鳥雅ふる
ごめく
すちんあ

身の上をんぞく小濱ハ一旦及限り且て
らまて身ぜ有りみがら男らしくもあく仏参りの出役意
ちぶ且てく孫兵衛行とらん腰掛るゆも為いんでぞ今たが
仏様しく同果ら小濱殿高且るゆが出来ないう形して孤
を思わぞ田舎まで出さうして来る拙るゆけで看且べ石孤る
ぐうか旅さんい女中の身の上とと仏孤いの意務ゆ且しう孤
うしいと思ていてきいます せん今ゆも拙ぐ小濱ハ身まて
ひぐ且ゆさるゆるべか旅さんの身の上も及るがうかに

あつく上る如つもりハしとうろ必ぞ世ぞるゆ孤るのゼトいよ
を云の者も風俗も実言ゆ拙遠るき仏るまべ女ハ孤うち
解く女まとふ方拙でぞぐいまもと拙ハ仏の拙ハ孤しいう知
まます せんヨヤち史ぐ演まるこ子ひ処ようう孤ハの者人ゆ
さいます 拙ぐどぐいまもうくト蘭紙あけて者向の拙仏を孤小
者衆の拙の主一号人拙さるく女ハ仏陽人仏て孤遠ハ孤ハ
モウ今ゆ小濱さんぐ者ゆりでぞぐいまもヨそして仏者主拙ハ
お通夜の拙ゆ人拙ゆ知るるるたづでぞぐいまもうくけとも

こうづくし
お公記へ云成ふ及びません〳〵左様なことばかりにあまって
ちゝ涙の流れまでちゝ変るとあのとおひませう世〳〵そんなふち
とろかき　ご
公主のくりとろくりとろ成まーヨ今ふお腹でもとらくとよまん
クトのひるのごう美成美しく美よを出しくるもの〳〵世〳〵アウ
お茶さんハ小濱さんが赤出をしく尼寺へ這入くお主の狂害
をとらくしく出るでるへうう他ふ濱ふるでもあるさら公
ぐあり成さのでハあいうと結ぶけくお主成様までどさん
ゆきそがあいくしたねつふ濱さまでハ主ませんヨ今ふ変てお

笑ごとこうゆきそけまどもわがア小濱さんおるう代行く
お吸ーヤませうがふ帰さんの　　ふ濱の宅
を拵て相が美へあ知のるハ初のふまけでどぶのきもヨト
とまうう小濱が当ぶでくく尼寺に入くあぶら他人の家
を除くあふ金ぶハりのちへて長き考雅ふ三年笑
新刊るせ〳〵公苦〳〵き辛防をとらくあ稽ふ上と八去
当雅ハ小濱の身と濱せ〳〵活様の石狂成ゆうふ田平成狂ひの

扨
ふじんいやまてこの
ふてまてく不後所悔恨
まそ
遥〻と行るゞ〻も〳〵お爺さんのお出しで私の狗がさつぱりと晴
ま
ま〻ゞゞものゝ今〻ぐちゝやとこ行く〻お婆さんの身
の上も〳〵お出しゆて尺こ所が仏成限して一生のる狗乞
人不知〻と思へ拾ゆと親孝さんちでも私も神ぐさま〳〵新ゞみを
ま〻こと孫の男の身の上ゞ〻〻生るゞ〻ゞ知るゞゞでいどぶいません
ま〻ゞ亦そまゞ出不知る所よりお年ごと御屋敷の方へも知れて今ゞの
孫ごゝ切ら出〻まゞゞと悪しの見不合狗の上のお〳〵でど

ぎゝまゞ〻〻行ゞゞ出不要まてく他人ゞゞ不容易和とゞゞ狗ゆと
いゝのでどゞゞゞまゞゞ〻〻拾る狗多ゞ狗ひとつゞが他狗
ゆ叶ゞゞゞゞゞゞいませんヨト湯殿ゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
狗ゞゞ不要ゞ〻〻ハテゞゞでゞゞ他狗ゆ〻〻〻〻のお出しゞゞ〻〻〻〻〻〻〻〻
出ごと〻〻トゞゞ〻〻〻〻〻〻〻〻

きのうごぜんごぜん　　こまつ　ゆまつ
とハ是貴同様ものの私の母ト いひうみて出ます　居ら私ども小
さな　　えんりよ
濱のおもく　たまゝとそれが　分　ちゝ　私の女房を　ぢぶ　居る
　　あけ
小濱とのこまつまでもうもはなくたるのてゝ　ゆうあるかぶお
　　ちごり　　あら　　せん
百姓のゝ子ちさんでも立らるゝ是　私ぶ　お世話をしてとゝ
　　あさぶん　ふつう
表向ハ是殿ゝ　ものゝ　別ゆゝ　私合して　樂をゆる
　　ゆのあ
拵ハ　ゆ合て　さるゝそれでこざいますぶ　お前ハ元の名てくる
　　のち　　ゆ
さん　濱ゝ　書ハ院さゝとゆ　でハこざいませんゝ　ものゝ　ぶ
　　ゆく　　ゆ
陽さまぶ　ゆ　ゆ　ゆ

きい　なさく　最さうしゞ女　行格いとゝ　こゝろまゞ　ゝ　ゝ　笑　ゝ　ゝ
ません　ノ　ゝ　ゝ　ゝ

て春日院忠こと兼の支あるを、親の義ゆえ兼のハ
ものハ
ものしとりくるも支を惜む支るゆゑ彼所毎公の
ものの千島をあびがゝせるゆゑ 此内意にて梅里に五俵分けるゝ兼て
ものの春の新島にまゐり
頼みゝ兼こる忠こと兼家早 芳間横〳〵家兼る身と相あれバ
ものの山溪冥愛ものゝ相多るべく〳〵先達て家威光あて命を拾ハ
私ゞ墨の尼寺人間〳〵兼ハ一見徒こる千島を唱戻し兼間こる人ハ
ものゝ共ども命ゞけあて兼せ〳〵兩個が中ゆ月ハ的舞忠こ兼る島
の春会を遂させつゝ共へ〳〵兼会三百兩をまゝ入用にこる人ハ

金〳〵ゆゑ親達の忠義を御〳〵こる人深き思ひ
ものゝ月ハ忠こと家兼ハ千島の舞才と兼
ものゝ中上ハ上ハ千島ゞの一生ゞゆゑ家諸のゝこるひをいさゝ会
ものを忠源中て立家ゞ〳〵が山帰ゞ謝会〳〵ものゝ
ものゝ長ゞ上き春と思ハ二日ものゝ上ものゝ上ものゝ
せいをひて鉢会〳〵藤を上けるゞ途中の間ものゝ抱〳〵者
藤の義こと春といゝ者を遂て約会の日ゞ一日も早くものを
せまて戸藤の家より鉢会人義ゞ梅里ハ

痛やーーとて　梅「あゝとう　さー体んで　ハイ　ハイ　ハイ　ハイ
ハイ　ハイ　ハイ　

短氣の表二字　表ヤイ此行先やらア邪ナ行やアがら ナ
何でもい侍紙ばかみ　仕れ人けややア　合点なくれ人　泣ごと
思やアがる東のくの表三字さんごで流行の腕を見やアがれ
ト行肌ぬぎて走くるを突退んとする二人の侍表三字八墓く
ゆくを二人を左右へだき倒し　表サア冠やめをとつてあるまつ
たくば振捨して来くるの程人でも侍でも先刻ゆくる横目で
見を見つて突を張やアがるのぶ氣に入られ人とめより早く
編笠を引ちくるとば侍ゆくで娘姉なる娘表二字八びつくして

斧後の方へ二足三足引ちる梅里八つぶる変やらんと
思ふて侍八呆表ちる侍八呆表ちる侍ア
更まるも一人の侍島をたくやふ逃ちり今紀くる侍に
引出ア　×「のけれ〳〵早〳〵逃ろ出人人ぶ思ると叫八娘人
「ちまぢやア　所ろ八出来をとあること
新ぢやア　れ人今の女も他人ぶ着て居さそんでアレあの通と
ふ逃ひぶ来くハトゆまて仕方の二人八弱ち矢さるふ向の
を見る中に村くの人ぶ逃来くあるまさ二ちに立まて

梅里たち
小濱の難を
まぬかる

田舎者を押出し振まわす三人ともうるへこうるさ逃出せば
森三郎も金兵衛もうろねど逃行侍の跡追人　来〳〵ヤイ此奴
ら　待やア　ぶまヤイ此所の汁を残て行きやアがるねへが
ヤイ　業報人の振舞　乳ヤアイ　梅〳〵ヲイ〳〵　喜三郎やり〳〵モウ
ふ捨て雪ねへナ　なぐらうさうぞ　コリヤ〳〵ねへ　奴ども　こうこう　様へ
のハ顔ぐらア　止様〳〵トいハて　喜三郎ハ引返さるゝ
娘ハ口中ゝ　血を吐ぐら　なやら　さき出して　娘〳〵　喜三郎
さん　御行く　来て　おくれ　ごらけ　ねへトいふも　書き　間ぢら

喜三郎　梅里も　きつ〳〵　怪〳〵　迷ひつゝ　あの年ものハぢ
女の顔をうち　掃ものあやしけるぶ　老〳〵　おやハア　浄ぐらけ
此奥ハ視　こうすとうぶ　白色ぶ　名を　知門て　居るうち　ハ　ぢ
知ること　嬉ふ　逃ひ　あるめへ　浄ぐらけノ　女〳〵ホン二　人〳〵
あるうち　左様ぐらあ　知人　知音町ふ　居ることぶ　ぢ
中ハ　去へ　ウ　左様ぐ　あるやど　左様ぐ　人べやう〳〵　男人ぶ　さ
御新　して　ア　此地の　方へ　来て　居るのぐそして　ア　形ぶハ　振
者とい人のぐら人　男ひ　後付の　名ぶ　ふ　大ゆ　さして　ア　へ

て
あれ入て山奥ヶ沢番く視て第ホ行でも相変る屋さ女
を男ろ猟る人ゴ あ為べで ま行のごと男ろ女ろ行ど
そん手猟る関係をしこのごと事ま女ま行ま弱くでも行て居このゴ変る
形ゴ行ゴ ハ行猟 してこの方鉄で第ぞんろんぞを行ま行ま
ろ行の鉄ヶ 山鹿で紐てあ長みさのヨ 梅ヤラ〜ろひそろ藤ぞ
ゴが結ひてあるそめゴコヶ 表こ公早く解て半んろく 梅イヤハヤ
ろ川ところそヶ 初ノヶ ドク〜〜 胸を明てこのひそぞれを解て
事ゴ表〜 ろろそヶ ぞそ関ろころ行猟してひ猟る月ホ ま行こ

のゴ ろ手理城ろろ〜〜ろ〜ろ言ハゴろまこ梅里ホ
白い 見猟行の鉄 ぞ白例でも 宝ゴ〜 ま行ま猟て行ろハ
ま行ろホ山猟を見猟ろこ表ま梅ハ左猟ゴ〜 経房を
関て宅ま行で送ゴ〜ろ行ゴけて上ろゴ行ハナ 長宅そんろ姉ろん
鉄をまゴろて遠ゴ表ゴ〜ろ行ま梅里ろやこ〜〜
いろハ表バ中漢ハ猟ろ為に ろし ホ猟をろろ

ま人解をいろゴをいろよ中漢ハ房ろホ律ハ表て猟ホ
ゴ猟ろ行ゴ 見ろ ろ行ゴ表バ 出一人房人猟ろんころ遠中

あて波風侍の旬月ふ咲食仕業ゐき森の中へ連立
ゆく行立て侍の姿ゑ〻ら人ら見ゆくあ〻ゑ〻ね振よ真
綿へ針土義本もさ〻て栗のいがの如くふ〻ゑる立食ゑ綿
ゑ〻き世ゑ色ゑ世ゑ色ゑ世ゑ色ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春色籬の梅二之巻オ